The Women's Studies Association of Japan

学会ニュース

日本女性学会
第 118 号　2010 年 2 月

発　行　日本女性学会
事務局　〒 272 － 0023
千葉県市川市南八幡 1 － 16 － 24
TEL 047-370-6068
FAX 047-370-5051
ホームページ
http://www.joseigakkai-jp.org/index.htm

目　次

次回大会予告…… 1
個人研究発表・ワークショップ募集について… 1
大会シンポジウム趣旨説明…… 2
幹事会議事録…… 2
研究会の報告…… 4
会員の著作紹介…… 4
研究会のご案内…… 5
会員情報…… 別紙

次回大会予告

会場：**ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター）**
〒 540-0008　大阪市中央区大手前 1 丁目 3 番 49 号　Tel：06-6910-8500
京阪・地下鉄「天満橋」より徒歩５分・JR 東西線「大阪城北詰」より徒歩 10 分

大会シンポジウム：社会を動かす女性学

大会日程：１日目　6 月 19 日（土）13 時～ 16 時半（予定）
大会シンポジウム、その後総会、懇親会
２日目　6 月 20 日（日）9 時半～ 15 時（昼休憩を 1 時間程度はさみます）（予定）
個人研究発表、ワークショップ
後援：ドーンセンター（大阪府立男女共同参画・青少年センター）

保育の必要な方は、詳細は次号をご覧ください。

個人研究発表とワークショップ申し込み受付について

タイトルと発表の概要（200 字程度）・発表のカテゴリー（個人研究発表、個人研究発表：パネル報告、ワークショップのいずれか）・発表時に使用する機材（機材は希望にそえない場合があります）を記載して **3 月 20 日までに**、ニューズレター担当の伊田久美子・青山薫までお申し込みください。

伊田久美子
青山薫

ご注意：念のため、上記 2 名の両方にお送り願います。

「ワークショップ」は、参加者との協同作業でテーマを発展させていく取り組みであり、個人研究発表とは性格の異なるものです。

「個人研究発表」は、共通テーマでパネル応募も可能です。人数は 3 名以上とします。各発表時間については、公平な配分および質問の時間を十分とることにご留意いただき、時間配分、司会者などを申込者で設定してください。

今回個人研究発表・ワークショップは第 2 日目です。

大学院生、非常勤講師等への旅費補助について

ワークショップ、個人研究発表をされる方で、学生、院生、OD 等、常勤職についておられない方には、学会より旅費の補助を行います（総額 10 万円を人数と距離に応じて配分しますので、補助金額は未定です）。希望される方は、報告申込の際に、「旅費補助希望」と明記してください。

〈大会シンポジウム「社会を動かす女性学」〉

シンポジスト：江原由美子・内藤和美・赤羽佳代子・荒木菜穂
コーディネーター：木村涼子

趣旨説明

1960 年代末に日本において「ウーマン・リブ」が芽吹き、70 年代には性差別を告発し、社会を変革する志をもった運動がさまざまな領域へと広がっていった。アカデミズムの世界に対しても、従来の「学問」は、女性に対する差別を隠蔽するばかりか、差別を正当化さえする働きをしてきたのではないかとの鋭い批判が投げかけられた。その批判の中から誕生したのが、女性学（women's studies）である。女性学は、学問であると同時に、社会を動かす運動の一部でもあった。日本女性学会は、女性学を掲げての設立から 30 年の節目を迎えている。20 世紀から 21 世紀へと世紀をまたいだ、この 30 年の間に、女性学は、女性差別と闘う学問としてどのような成果を生み出し、性差別的な社会をどこまで変えることができたのだろうか。

近年女性学に対し、アカデミズムや行政の分野で「制度化」されることによって変質している、あるいはある種の「権威主義化」が生じている、女性学（者）には「女」を一枚岩に見る狭隘な視点や女性差別以外の差別に対する無関心、「マイノリティ」に対する差別意識が内在しているなどの、種々の批判が投げかけられている。また、まったく異なる立場から、女性学こそが家族の崩壊や性の乱れを生み出しているという、フェミニズムへのバックラッシュ現象も起こっている。

フェミニズムの内外からの批判は、女性学が社会を動かす力をもってきたために生じているのか、あるいは動かし得ていない、あるいは事態を後退させているがために生じているのか。国や自治体の進める男女共同参画政策はフェミニズム・女性学のめざす方向とどうつながるのか。容易に解ける問いではないだろうが、シンポジウムでは、女性学誕生の志にたちもどり、社会を動かすという視点から、女性学のこれまでをあらためて問い直したい。

研究会報告

「知と文明のフォーラム」主催
セミナー「生殖革命」と人間の未来　報告書

司会　石田久仁子
講師　江原由美子　中嶋公子　長沖暁子　青木やよひ

2009 年 10 月 24 日、25 日の二日間にわたり、伊豆高原の私立私設ヴィラ・マーヤにて開催された。参加者は両日とも講師・司会を除き約 30 名であった。報告の簡単な内容は以下の通り。

江原由美子氏「フェミニズムと生殖革命—その問題点の展望」では、「生殖革命」や自己決定権概念、自立した主体を前提とするリベラリズムへの批判等をめぐる議論と問題点が整理された。

中嶋公子氏「女性の身体の自己決定権とその困難—フランスを中心に」は、出生前診断、体外授精や代理懐胎などの新たな生殖技術が女性を困難な状況に追いこんでいる実態、国家による優生学から個人主体の優生学への変化に伴う危険を指摘した。

長沖暁子氏「生殖技術とは何か」は、研究だけでなく、不妊女性や非配偶者間人口授精（AID）による出生子の支援運動などにたずさわる実践の視点から生殖技術や医療の争点を分析し、当事者の経験や知が語られ共有される必要を論じた。AID 出生子自助グループのメンバーからも発言があった。

青木やよひ氏「私の問題提起—生命倫理から生殖倫理へ」は、卵提供による人工授精は人類史上始めての生殖技術の転換であると主張。この転換により「公共の福祉」がゆるがされている状況を変えるために、従来の生命倫理を超えた「生殖倫理」が必要であると論じた。

発表の後、質疑応答、および討議が活発に行われた。参加者に研究者、医師などの専門家が多かったこともあって討議も深まり、啓発的な内容であった。今回のセミナーを踏まえて 2010 年に東京でシンポジウムを開催すること、日本女性学会への参加を積極的に検討することについて合意が得られた。参加の方法、具体的な参加者については、11 月中に話し合いを持つこととなった。

末尾となるが今回の会を可能にしてくださった日本女性学会に感謝したい。

会員の著作

- 道あゆみ監修『ドメスティック・バイオレンス—絶望のフチからの出発』実業之日本社　800 円　2009 年 2 月　草柳和之は「第 4 章 DV 男性の更正」を執筆
- 玉田佳子　『擬装する女性作家—十八世紀イギリス女性作家の戦略』英宝社　2520 円　2009 年 5 月
- 杉浦浩美　『働く女性とマタニティ・ハラスメント』大月書店　2730 円　2009 年 9 月
- 須藤八千代、渋谷典子（編）『女性たちの大学院—社会人が大学院の門をくぐるとき』生活書院　2200 円　2009 年 10 月
- 妙木忍『女性同士の争いはなぜ起こるのか　主婦論争の誕生と終焉』青土社　2730 円　2009 年 10 月
- 竹中恵美子／関西女の労働問題研究所『竹中恵美子の女性労働研究 50 年』ドメス出版　2415 円　2009 年 10 月
- 直井道子、村松泰子（編）『学校教育の中のジェンダー』日本評論社　2940 円　2009 年 11 月
- 栗原涼子『アメリカの第一波フェミニズム』ドメス出版　4200 円　2009 年 11 月
- 女性学研究会『女性学をつなぐ—女性学研究会アーカイブ』新水社　1890 円　2009 年 12 月
- Michiko Suzuki, “Becoming Modern Women: Love and Female Identity in Prewar Japanese Literature and Culture”, Stanford University Press, $21.95（約 2100 円），2009 年 12 月

メールニュースについて

メールニュースは学会員のみなさまに有用な情報を不定期にお届けしています。是非ご登録ください。希望者は担当者までお申し込みください。

メールニュースを配信するたびに何通か戻ってきます。アドレスを変更された方は速やかにお届け願います。また、お申し込みをされているのに届いていない方がおられましたらご連絡願います。

配信原稿は他のメールから引用の形で転送するのではなく、直接お書きください。

また、配信依頼が立て込むと配信が数日おくれることもあります。ご了承ください。

メールニュース担当　三井マリ子

研究会のご案内

2010 年大会シンポジウム　プレ研究会

大会シンポジウム「社会を動かす女性学」のパネリストにお出でいただき、シンポジウムに向けた準備の研究会を開催します。どなたでも参加できます。資料等準備の都合上、参加希望者はなるべく事前にご連絡ください。

＊＊＊

日時：**2010 年 3 月 22 日　11 時〜 13 時**
場所：ピープルズ・プラン研究所
所在地：東京都文京区関口 1-44-3 信生堂ビル 2F

地下鉄で
◎地下鉄有楽町線「江戸川橋駅」1-b 出口徒歩 5 分
◎地下鉄東西線「早稲田駅」1 番出口徒歩 15 分
◎地下鉄東西線「神楽坂駅」2 番出口徒歩 15 分
［江戸川橋駅からの行き方］
江戸川橋駅 1-b 出口を出て（改札から 3 分かかります！）、左手にマクドナルド、ドトールコーヒー、ファミリーマートなどを順に見ながら大通り（新目白通り）を 5 分ほど歩くと、「一休橋入り口」という交差点があります。そこを左に曲がって、道路の左側にある 3 つ目のビルです。1 階は「ミヤ校正」さん、2 階がピープルズ・プラン研究所です。

研究会担当　海妻・柚木

お知らせ

「お知らせ」欄は幹事会および会員等からの公共性の高い情報を掲載します。

掲載希望はニューズレター担当者までご連絡ください。

ニューズレター担当
伊田久美子
青山薫

会員の著書紹介

以下のルールで会員のみなさまの著作を紹介します。掲載ご希望の方は、ニューズレター担当者までご連絡ください。

- 会員が執筆・編集している単行本（分担執筆含む、雑誌をのぞく）
- １年以内の発行物
- ご本人の申し出があったもの
- 寄贈は条件としない

ニューズレター担当
伊田久美子
青山薫

会員主催研究会募集

日本女性学会は会員主催の研究会に対し以下の応募要件にしたがって補助金助成をおこなっています。

〈応募要件〉

- 研究会の趣旨が女性学会の趣旨に適っているもの。
- 少なくとも会員に対して、公開の研究会であること。
- 研究会のタイトル、趣旨、企画者（会員個人・会員を含むグループ）、開催場所、開催日時、研究会のプログラム、全体の経費予算と補助希望額（2 万円以内です）が決定していること（未決定部分は少ないほど良いのですが、場所・プログラム・経費については予定＝未決定の部分を含んでいても結構です）。
- 学会のニュースレター・ホームページに載せる「研究会のお知らせ」の原稿（25 字× 20 行前後）があること（研究会の問い合わせ先を明記する）。
- 研究会終了後、実施報告文を学会のニューズレターとホームページに書いていただきます（補助費はこの原稿提出後に出金いたします）。
- 学会総会での会計報告に必要なため、支出金リストと、総額での企画者による領収書を提出すること。
- 申し込みは、広報期間確保のため原則として開催の 3 ヵ月前までに研究会担当幹事まで、お願いいたします。詳細のお問い合わせも、研究会担当幹事まで。

研究会担当：柚木、海妻